

情報通信審議会 電気通信事業政策部会
接続政策委員会（第 69 回）議事概要

日 時 令和 6 年 1 月 31 日（水）16：02～16：24

場 所 オンライン会議による開催

参加者 接続政策委員会 相田主査、山下主査代理、森川委員、高橋専門委員、
内藤専門委員、西村（暢）専門委員、西村（真）専門委員、
橋本専門委員

事務局 木村電気通信事業部長、井上料金サービス課長、
(総務省) 竹内料金サービス課課長補佐、
柴田料金サービス課課長補佐

【議事要旨】

「IP 網への移行後の音声接続料の在り方」について

○ 論点整理

事務局から論点整理（案）について説明を行い、質疑応答及び意見交換を行った。

【発言】

○高橋専門委員

論点整理について、私は事務局の案でよろしいかと思えます。

ただ、ここで話すべきかどうかは分かりませんが、論点 5 の 2 つ目の四半期単位の実績トラヒックのホームページ開示義務の見直しについて、資料 15 ページの一番下に記載のとおり、接続事業者に聞いてみたら、年 1 回で差し支えないという意見が大半であったことから、これはこれでいいとして、接続事業者が本当に欲しい情報で、NTT 東日本・西日本が出せる情報というのは何なのかということについては、考える余地があるのかと感じました。

結局、トラヒックの開示の件は、情報を出す側と受け取る側でニーズの食い違いがあったということだったかと思うので、接続事業者にとってどういった情報が開示されるとよいものかということ、改めて何かの機会に議論する余地もあるかと思えます。

○柴田料金サービス課課長補佐

御指摘のありました、必要な情報開示につきましては、約款変更認可プロセスの中でも、様々な御意見をいただいているところですので、総務省としても検討していきたいと考えております。

今般は、「四半期単位の実績トラヒックのホームページ開示義務の見直し」に関する意向調査に対する自由回答の中で、年 4 回のトラヒックの情報よりも、年 1 回、具体的には次年度の接続料原価がどうなるかという情報のニーズがありましたので、それを考え方の案に反映させていただいたものでございます。

○橋本専門委員

資料 4 ページの論点 3 に関連することで、1 点確認させていただきたいと思えます。

今般は、東西均一接続料を維持するということですが、今般の試算では、NTT 東日本・西日本の接続料の東西比が 1.2 倍、格差が 20%となっており、この 20%とい

う数字をどのように捉えるのかというのを確認したいと思っています。

今までの議論から捉えてみると、20%という値は、NTT東日本・西日本の接続料の格差が大きい状態を意味しており、その格差が20%より小さくなった場合には、東西別接続料の議論を始めていくことになるという理解で問題ないかを確認したいと思います。

○柴田料金サービス課課長補佐

1.2倍、20%という値が、必ずしも基準値として何かに決まっているものではないかもしれませんが、東西別接続料の扱いに係るこれまでの検討経緯について、資料7ページの下から2つ目の「情報通信審議会答申「長期増分費用方式に基づく接続料の平成23年度以降の算定の在り方について」(平成22年9月28日)」、及び「情報通信審議会答申「長期増分費用方式に基づく接続料の平成25年度以降の算定の在り方について」(平成24年9月25日)」のところにございますとおり、20%以上に達しているときは、NTT東日本・西日本の接続料の格差が大きいという文脈となり、東西均一接続料を採用することが適当とされております。先生がおっしゃった、今後、20%の格差が例えば19%、18%になった場合には、それが小さいかどうかについて、周囲のほかの状況も踏まえて議論が必要になるのかと考えておりました。現時点では、メルクマールが置かれているわけではないと考えております。今般は、この1.20倍という試算結果を踏まえ、東西均一接続料を維持するほうが妥当であるという方向で御議論いただいたものと承知しております。

○相田主査

それでは事務局から、今後の進め方等について御説明いただければと思います。

○柴田料金サービス課課長補佐

資料の1ページに記載されている論点につきまして、論点整理が進んだものと思いますので、その先のステップに進んでいきたいと思っておりますけれども、次回会合の日程などにつきましては、今後、事務局より御連絡を差し上げます。

○相田主査

次回会合では、論点整理を文章化した報告書案について調査検討することになるという理解でよろしいでしょうか。

○柴田料金サービス課課長補佐

そのように考えております。委員の皆様方から、追加の意見がございましたら、事務局にお寄せいただければと存じます。

○相田主査

では今後、そのように進めてまいりたいと思っております。

それでは、第69回接続政策委員会をこれで終了させていただきます。

以上